

令和7年度 郡山市図書館協議会委員 視察研修 所感

視察研修日 令和7年8月7日(木)
視察研修先 東京子ども図書館
国立国会図書館国際子ども図書館
参加委員6名
管理係 今泉
総合サービス係 橋本 計8名

1 東京子ども図書館 中野区江原町1-19-10 (説明案内: 関口 様)



記念撮影

物販

ワークショップ

大人のおはなし会

○ 概要は、約20分の映像資料による説明を視聴した。

(参照:「年次報告」「ごあんない」「本をよんでもらってうれしいさん」ほか)

・ 資料の閲覧

子どもたちに手で本を借りる喜び、履歴を残すため、あえて「ブラウン方式」を採用。
3歳以上で、自分で来館し、貸出手続きのできる児童に対し貸出を行う。
乳幼児は保護者の保護のもと「準会員」
成人(18歳以上)は年会費1,000円が必要(賛助・購読会員は無料)

・ 書庫収蔵能力

児童室 8,629冊

資料室 20,235冊

かつら文庫 3,593冊

※ 資料室は現在改修工事中(～令和8年2月まで)

※ 児童室では「おはなしのじかん」「わらべうたの会」を実施

・ 選書

職員が主に銀座の教文館書店9階の「ナルニア国」で児童書、絵本を厳選して購入。
また、出版社、作者からの献本。白熱した選書会議を実施している。

※ これらの資料には、カーネギー賞、ニューベリー賞など、海外の児童図書賞受賞作品、英国の先駆的児童図書館員アイリーン=コルウェル氏からの寄贈書コーナー(→アイリーン=コルウェル・コレクション)、語り手のための昔話集もある。

・ おとなのおはなし会

れんが造りのおはなし会室で、「おはなしろうそく」を灯しながら、おはなし会を体験。
(有料、1団体10名まで11,000円、1人追加ごとに+1,100円)

※ 教本の「おはなしろうそく」も販売、貸出している。

- ・運営について

Q 運営に際して配慮している点について

A 私立の図書館のため、寄付金や出版物等の売りに頼っている。

- ・その他の特色、活動

中野区内の学校を訪問しての読み聞かせの実施、有料での読み聞かせボランティアの養成、読み聞かせ講師派遣、日系ブラジル人児童のためのポルトガル語のおはなし会の実施

「おはなしろうそく」などの出版物やグッズの販売

○ 所感

我が国を代表する児童文学者が設立、その志を継いだ職員によって運営されている。子ども及び、児童文学研究者、よみかせボランティアにとっての聖地。蔵書数は多くはないが厳選されており、児童目線、子どもの心をはぐくむことを目的とした選書・蔵書を重視するほか、古今東西の貴重な資料を所蔵している。

「第五次郡山市子ども読書活動推進計画」の基本方針、1.「子どもの読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実」2.「家庭・地域・学校における連携の推進」3.子供の読書活動を支える人人材の育成」を、まさに実践している施設であり、訪問先に選んだことは正解であると感じた。

ただ、寄付金と物販に頼る自主運営努力は素晴らしいが、何らかの公的支援が必要ではないかと感じた。

【参考】

- ・ かつら文庫



江田町の本館とは別に、荻窪に児童文学作家/翻訳家石井桃子先生の居宅を改装した「かつら文庫」が分館として設置されており、こちらでも児童向けサービスを実施。

※10月4日に今泉が個人で訪問。

2 国際子ども図書館 台東区上野公園 12-29 (説明案内 濱野 様)



記念撮影



外観



全体模型



書庫

○ 概要は、約20分の映像資料による説明を視聴した。

(参照：リーフレット「国際子ども図書館」、パンフレット「国際子ども図書館へ」)

・ レンガ棟

(参照：パンフレット「国際子ども図書館の建築」、チラシ「レンガ棟を探検してみよう！」)

歴史的建造物のため、空調の吹出し口は床からとなっている。

1階には、①子どものへや、②世界を知るへや、③おはなしのへや、2階には、④児童書ギャラリー、⑤調べものの部屋、3階には⑥本のミュージアムと部屋が分けられている。明治39(1906)年に帝国図書館として建設された未完の建造物であるが、ルネサンス様式の洋風建築物であるため、各部屋に入室すると重厚感を感じるものの落ち着いた雰囲気とぬくもりがあった。

①「子どものへや」は、影がでにくい光天井の構造になっており、子どもたちの利用に配慮した作りになっている。本の展示は、2か月ごとに替えている。

②「世界を知るへや」は、旧帝国図書館時代には、皇族や伯爵等の貴賓室として使われていたため、^{こてえ}鍍絵の天井、寄木細工の床など手の込んだ内装になっている。

④「児童書ギャラリー」には、明治時代から現代までの教科書も展示されている。また、旧帝国図書館時代に使用されたエレベーター部分が壁際に残されている。

(参照：パンフレット「児童書ギャラリー」)

⑤「調べものの部屋」は、中高生を対象としており、NDC(日本十進分類法)の理解を容易にする目的で、一つの書架を利用して、具体的に分類区分ごとに本を展示していた。

(参照：パンフレット「調べものの部屋 案内」ほか)

⑥「本のミュージアム」は、テーマを設けた本の展示を定期的に行う。

現在は、東京都美術館で開催中の企画展と連携して展示を行っている。

(参照：パンフレット・チラシ「絵本に見るアートの100年」、「絵本に見るアートの100年ー関連小展示ー」)

・ アーチ棟

1階：研修室

2階：児童書研究資料室(登録利用者カードが必要)

(参照：チラシ「児童書研究資料室」、「子どもと本をつなぐ人へ〜児童サービス基本図書」、「2018年 日本の児童文学賞受賞作品」ほか)

3階：事務室

地下1階・2階：書庫

平成27（2015）年、竣工

（参照：パンフレット「国際子ども図書館の建築」）

- ・ 書庫収蔵能力

レンガ棟 40万冊

アーチ棟 65万冊

※ 見学者が書庫に入庫する際には、靴底の粘着マットが設置されている。

※ 温湿度管理：室温22℃、湿度55%

○中庭のカフェは自由に利用できる。

○ 所感

歴史的建築と現代建築の機能を生かした建物であるため、他の現代建築の図書館と比較して維持管理費は膨大であると推測される。利用者にとっては、高級ホテルに滞在しているような雰囲気があった。

国際子ども図書館の図書は、図書の保存と活用（子どもの利用）を考慮して、取外し可能な透明カバーが施してあった。

子どもの図書の表紙を見せる配架は、書架のスペースを非効率的に利用する側面もあるが、その図書の印象、特徴を、子どもたちが視覚的に理解することができる手助けになるものと感じた。

「世界を知るへや」には、外国語に訳された日本の児童書が、数か国（数点）ずつ展示されており、挿絵を比較すると、それぞれの国のこの本に対する印象や国柄が理解できた。

今回の視察研修の随行においては、図書館資料の保存の重要性の意義を改めて理解した。本市では、特に郷土資料の保存については、温度・湿度管理ができる専用の書庫がないため、将来、新たな施設が建設される場合には、この点を十分配慮した設備が必要であると感じた。

また、本市の収蔵資料のデジタル化についても、継続して取り組む必要性を理解した。

「第五次郡山市子ども読書活動推進計画」の策定にあたっては、特に1.「子どもの読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実」及び3.「子供の読書活動を支える人材の育成」に関し参考となり、また、児童図書等の整備・保管、展示方法等のハード面での参考となった。明治の歴史と平成末期の最新技術の調和と融合がすばらしいと感じた。